

1999年8月10日

言語処理学会ニュースレター

Vol. 6, No. 3

言語処理学会

The Association for Natural Language Processing

言語処理学会事務局:

〒152 東京都目黒区大岡山 2-22-1

東京工業大学 大学院情報理工学研究科

計算工学専攻 田中研究室内

tel: 03-5734-3046 fax: 03-5734-2915

<http://www.crl.go.jp/nlp>

内容:

- 言語処理学会第5回通常総会報告
- 編集委員会からのお知らせ
- 自然言語処理特集号「構文解析」の投稿募集案内

- ★ 第5回通常総会を1999年6月7日に東京工業大学で開催いたしました。
- ★ 自然言語処理では「構文解析」の特集号を企画しています。奮ってご投稿ください。
- ★ 第6回年次大会は、2000年3月6～10日に、北陸先端科学技術大学院大学で開催を予定しています。発表募集の詳細は次号のニュースレターでお知らせいたします。

言語処理学会第5回通常総会報告

(1) 第5回通常総会次第

日時 1999年6月7日(月) 16時～17時

場所 東京工業大学 ベンチャービジネスラボラトリ

1F プレゼンテーション室 (石川台地区)

(東京都目黒区大岡山 2-12-1, Tel.03-3726-1111)

総会次第

1. 開会
2. 会長挨拶
3. 第5回年次大会優秀発表賞授賞式
4. 議長選出
5. 1998年度活動報告
6. 1998年度決算報告, 監査報告
7. 1999年度事業計画提案
8. 1999年度予算計画提案
9. 1999年度評議員構成
10. 1999年度役員構成
11. 閉会

(2) 1998年度 事業報告

1. 概要

言語処理学会発足から4年間の活動を踏まえて、理事会および編集委員会を中心に学会の基盤作りと活動領域の拡大を進めました。会誌に関しては、通常号のほかに特集号を企画・発行するとともに、英文誌の刊行を目指した取り組みを具体化しました。年次大会に関しては、昨年度に引き続き、言語学系と情報・情報工学系の研究者の交流や突っ込んだ議論ができるようプログラムを編成しました。チュートリアルには百名以上が参加し、本会議には約150件の研究発表を得て、350名以上が参加しました。また、併設ワークショップでは、13件の発表に対し、110名以上の参加者があり、活発な議論ができました。さらに、日常的な活動を支援するために、学会のホームページおよびメイリングリストの管理を郵政省通信総合研究所に移管して情報発信体制をより一層整備し、基本専門用語日英対訳リストを見やすく公開し、会員名簿の更新・発行を行ないました。

2. 会員現況 (1999年3月31日現在)

正会員	604名 (海外在住14名含む)
学生会員	111名 (海外在住3名含む)
賛助会員	16社 (20口)
定期購読会員	34件 (35口)

3. 会誌の発行

- ◇ 第5巻第2号 (1998/4/10 発行, 通巻15号)
巻頭言, 論文4編, 入会案内・執筆案内等会告
- ◇ 第5巻第3号 (1998/7/10 発行, 通巻16号)
巻頭言, 論文6編, 入会案内・執筆案内等会告

- ◇ 第5巻第4号(1998/10/10発行,通巻17号)
巻頭言,論文7編,技術資料1編,訂正記事,入会案内・執筆案内等会告
- ◇ 第6巻第1号(1999/1/10発行,通巻18号)
巻頭言,論文3編,技術資料1編,入会案内・執筆案内等会告
- ◇ 第6巻第2号(1999/1/10発行,通巻19号)
特集:音声認識・理解・合成のための日本語処理
巻頭言,論文5編,技術資料2編,入会案内・執筆案内等会告

商業的であっても,研究に有用なものであれば会誌への広告掲載ができるものとし,ニュースレターおよびホームページに案内を出しました. 広告掲載の詳細に関しては下記のURLをご参照下さい.

URL=<http://www.crl.go.jp/nlp/guide/keisai>

4. 第5回年次大会の開催

- ◇ 開催期日: 1999年3月15日(月)～18日(木)
- ◇ 会場: 電気通信大学(東京都調布市調布ヶ丘1-5-1)
- ◇ プログラム
 - [チュートリアル講演]
 - 3月15日(月)
 - 日本語ディクテーション基本技術 伊藤 克巨氏(電総研), 山本 幹雄氏(筑波大学), 河原 達也氏(京都大学)
 - インターネットのためのテキスト処理 最適性理論 佐藤 理史氏(北陸先端科学技術大学院大学/さきがけ21) 窪園 晴夫氏(神戸大学)
 - [招待講演]
 - 3月16日(火)
 - 失語症および脳波から言語処理を見る 萩原 裕子氏(東京都立大学)
 - 3月18日(木)
 - 手話の言語学的特徴 神田 和幸氏(中京大学)
 - [一般発表 ポスター発表]
 - 3月17日(水) 24件
 - [一般発表 講演発表]
 - 3月16日(火)～18日(木) 122件
 - ◇併設ワークショップ
 - 3月19日(金) 発表13件

◇ 参加者数

	会員	学生会員	非会員	学生非会員	合計	予稿集のみ
チュートリアル講演	69	15	14	15	113	19
本会議	196	33	53	75	357	23
併設ワークショップ	72	12	16	16	116	13

◇ 年次大会優秀発表賞

第5回年次大会実行委員会は年次大会優秀発表賞選定委員会を兼ねて審議を進めた結果,次の講演発表を第5回年次大会優秀発表賞として選定しました.

「テキストコーパスを用いた音声認識誤り訂正手法」(C1-7)

石川 開・隅田 英一郎(エイ・ティ・アール音声翻訳通信研究所)

5. ニュースレターの発行, 学会ホームページ等

1998年度はニュースレター Vol.5 No.1～Vol.6 No.1 の3号を発行し, 学会運営, 学会誌論文募集, 大会案内, 学会主催・共催の催しなど会員への各種情報の提供を行いました。また, 学会のホームページおよびメイリングリストの管理を九州工業大学から郵政省通信総合研究所に移管しました。現在, メイリングリストの登録アドレスは700件弱になっています。

6. 会議

- ◇ 理事会計5回の理事会を開催し, 新入会員の承認, 年次大会の方針の決定, 学会活性化の具体策の審議などを行ないました。さらに, 編集委員会討議の報告を受けて, 英文誌発行に向けた学会活動の在り方, ならびに電子ジャーナル化に向けた今後の会誌発行の在り方などについて審議しました。併せて, 理事会の電子ボード上で英文誌発行の議論や会誌の広告掲載効果などについて多くの審議を行いました。当学会の研究活動をより公にするために, 日本学術会議に対して学術研究団体として登録申請する意義などについても審議しました。また, 学会からの情報発信を迅速に行なえるよう, 学会ホームページとメイリングリストの整備を行なうと共に, 会員名簿の更新・発行を行ないました。

理事会開催:

第26回(1998年4月23日), 第27回(1998年8月31日), 第28回(1999年10月9日),
第29回(1998年12月18日), 第30回(1999年3月15日)

- ◇ 評議員会

計2回の評議員会を開催し, とくに初回において, 1998年度新役員を選出し, 98年度と99年度に渡る新役員体制を作りました。全体に渡っては, 特集号, 用語集, 英文誌, 賛助会員の増員に向けての取り組みについて議論しました。また, 年次大会やワークショップの日程について議論しました。

評議員会開催: 1998年度第1回(1998年4月23日), 第2回(1998年6月8日)

- ◇ 編集委員会

計5回の編集委員会を開くと共に, 電子メールによる処理も併用して, 充実した査読, 迅速な掲載を行ないました。また, 特集号「音声認識・理解・合成のための日本語処理」を発行するとともに, 「談話・対話の言語学的・心理学的モデル」, および「テキスト要約のための言語処理」については, ほぼ編集作業を終了し, 7月に発行できる見込みとなりました。英文論文誌の刊行に向けて辻井副会長(総編集長), 島津編集長を中心に作業を行ない, 有力な出版社と折衝しています。

編集委員会開催: 第22回(1998年4月10日), 第23回(1998年7月10日),
第24回(1998年10月2日), 第25回(1999年1月22日), 第26回(1999年3月17日)

- ◇ 年次大会実行委員会

電子メールを使った会議, ならびに協議を主にして, 年次大会の準備を進め, 委員会の開催はプログラム作成時に1回行ないました。

(3) 言語処理学会 1998 年度決算報告 (自 1998.4.1 ～至 1999.4.15)

勘定項目	小項目	金額 (円)	備考
収入科目	個人会費	4,839,900	@8,000 × 552, @7,600 × 4, @4,000 × 95, @6,750 × 2
	賛助会費	1,000,000	@50,000 × 20
	特殊購読費	330,000	@10,000 × 33
	別刷り代	1,502,080	98 年度分 29 論文
	第 5 回年次大会収入	3,129,708	
	雑収入	158,237	バックナンバー @5,000 × 14, @3,000 × 2, 預金利息 11,342, 郵貯口座より 66,000
	合計	10,959,925	
	前年度繰越収支差額	11,176,705	
	収入合計	22,136,630	
支出科目	(1) 論文誌印刷 / 配送費	3,714,900	別刷り・送料込み 900 部 / 号
	(2) 論文誌編集費	243,880	LaTeX 化作業費
	(3) 業務委託費	2,097,898	基本会員業務 772,000(学会センタ), 宛名ラベル発行, ニュースレター印刷発送費, 会員名簿作成費 570,128, 等
	(4) 通信費	84,680	
	(5) 理事会 / 編集委員会費	60,091	理事会 5 回, 編集委員会 5 回, 会場費等
	(6) 第 5 回年次大会開催費	2,624,224	第 5 回年次大会収支報告書参照
	(7) 諸経費	179,643	大会発表優秀賞, 宅配便等
	当期支出合計	9,005,316	98 年度内に発生・実施された事柄に対する支払いを 対象とする
	次年度繰越収支差額	13,131,314	
	支出合計	22,136,630	

- 上記の通り報告いたします。

言語処理学会 総務・財務担当理事 白井 諭 印

- 監査の結果, 上記の結果に相違ありません。

言語処理学会 監事 樽松 明 印

言語処理学会 監事 白井 克彦 印

(4) 1999 年度 事業計画

1. 運営・活動方針

言語処理学会の主要活動であります会誌の発行が軌道に乗り, また年次大会についても回を重ねるごとに発表論文, ならびに参加者が増え, 会員相互の情報交換を進める場が定着してきました。本年度は言語処理に関連する研究分野間で, より一体となった情報交換や研究活動ができるように取り組みを強化します。そのために, 会誌の特集号を企画・発行し, 公開した基本専門用語日英対訳集を拡充すると共に, 解説を加えることとします。さらに, 英文誌発行のための具体的要件を整理し, 実現に向け努力します。同時に既存の会誌を電子ジャーナル化することによる経費効果なども明らかにして, 会費収入の効率的な運用に努めます。また, 海外の関連学会との協力関係の在り方などを探ります。

2. 会誌の発行

通常号のほか、特集号を発行します。自然言語処理分野で世界的な英文論文誌の発行を目指します。現在の日本語論文誌の電子化を目指し、引き続き検討を進めます。

- ◇ 第6巻第3号(1999/4/10発行, 通巻20号) (発行済み)

巻頭言, 論文9編, 入会案内・執筆案内等会告

- ◇ 第6巻第5号(1999/7/10発行予定)
- ◇ 第6巻第7号(1999/10/10発行予定)
- ◇ 第7巻第1号(2000/1/10発行予定)

ほかに特集号を予定しています。

- ◇ 第6巻第4号(1999/7/10発行予定)
「談話・対話の言語学的, 心理学的モデル」特集号
- ◇ 第6巻第6号(1999/7/10発行予定)
「テキスト要約のための言語処理」特集号

3. 第6回年次大会の開催

- ◇ 開催期日: 2000年3月6日(月)～10日(金)
- ◇ 会場: 北陸先端科学技術大学院大学(〒923-1292 石川県能美郡辰口町旭台1-1)
- ◇ プログラム

[チュートリアル講演]

3月6日(月)3件

[招待講演]

3月7日(火)～9日(水)2件

[一般発表 ポスター発表]

3月7日(火)～9日(木)発表予定件数30件

[一般発表 講演発表]

3月7日(火)～9日(木)発表予定件数120件

- ◇ 併設ワークショップ

3月10日(金)にワークショップの開催を企画します。

発表予定件数10件

4. 会議

- ◇ 総会

通常総会を本年度と同時期に開催します。

- ◇ 理事会

昨年度同様に開催します。英文誌の実現に向けて取り組みます。

- ◇ 評議員会

総会に合わせて開催します。賛助会員の増員に向けての具体的な施策, 学会全体の活動強化に向けた施策のほか, 英文誌への取り組みについて議論します。

- ◇ 編集委員会

(1) 編集委員会の体制の再編について

学会発足時からの編集委員会の体制を実際の状況に合わせて今年度から新たな体制に再編します。この

体制により現実の状況に対応し、迅速で公正な論文査読および適切な会誌の発刊を行なってまいります。これまで、編集委員には任期がなく、編集委員の数が多割に一部の委員には多くの負荷がかかっていました。このような状況に対して、辻井編集委員長時代から委員会で議論を重ねた結果、以下のように体制を整えます。

- ・ 常時、出席できる方、10名程度で委員会を構成する。
- ・ 編集委員の任期を2年とする。
- ・ 査読委員を設け、査読者が不足する分野を補強する。

(2) 論文誌の発行

編集委員会を会誌の発行に合わせて開催し、電子メールを有効に使って迅速、かつ充実した査読を行ないます。英文論文誌、会誌の電子化などについてさらに検討を進めます。

5. ニュースレターの発行、学会ホームページ等

学会ホームページ、学会メーリングリストと連携し、ニュースレターによるタイムリーな情報の提供に努めます。学会のホームページの拡充を行います。言語データ、研究機関、プロジェクト等へのリンクを充実し、学会員へのサービスの充実を図ります。

6. 1999年度 評議員構成 (別項参照)

昨年度の体制を継続します。

7. 1999年度 役員構成 (別項参照)

昨年度の体制を継続します。

(5) 言語処理学会 1999 年度 予算案 (自 1999.4.1 ～至 2000.3.31)

勘定項目	小項目	金額 (円)	備考
収入科目	個人会費	4,800,000	正会員 @8,000 × 600 名
		400,000	学生会員 @4,000 × 100 名
	賛助会費	1,000,000	賛助会員 @50,000 × 20 名
	特殊購読費	350,000	購読会員 @10,000 × 35 組織
	別刷り代	1,280,000	別刷り @40,000 × 20 論文 / 年, 2 特集 計 12 論文
	第 6 回年次大会収入	3,500,000	
	雑収入	60,000	会誌販売代, 利息等
	合計	11,390,000	
	前年度繰越収支差額	13,131,314	
	収入見込計	24,521,314	
支出科目	論文誌印刷配送費	4,200,000	別刷り・送料込み 900 部 / 号, @700,000 × 4 号, 特集号 @700,000 × 2 号
	論文誌編集費	480,000	@15,000 × 32 論文, LaTeX 化作業費, 会告等 編集費を含む
	業務委託費	1,500,000	基本会員業務 800,000(学会センタ), 宛名ラベル発行, 発送費等加算
	通信費	550,000	ニューズレター送付, 総会案内報告, 査読通知等 (@90 × 700 通 × 3 回, @270 × 900 通, @100 × 700 通, 等)
	理事会 / 編集委員会 / 評議員会費	150,000	@10,000 × 10 回, 会場費 50,000
	第 6 回年次大会支出	3,500,000	
	別刷り代援助資金	150,000	別刷り @30,000 × 5 論文 / 年
	諸経費	800,000	大会発表優秀賞, 英文誌発行準備費 (500,000), 等
		合計	11,330,000
	次年度繰越収支差額	13,191,314	
	支出見込計	24,521,314	

(6) 言語処理学会 1999 年度 評議員 一覧

1996-1999 年度 (2000.3 まで)				1998-2001 年度 (2002.3 まで)			
氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属	氏名	所属
池田 尚志	岐阜大	植村 俊亮	奈良先端大	石川 徹也	図情大	江原 暉将	NHK
絹川 博之	日立	奥村 学	北陸先端大	奥村 明俊	NEC	亀田 雅之	リコー
坂本 仁	沖電気	黒橋 禎夫	京大	神門 典子	学情	北 研二	徳島大
田中 裕一	ジャストシステム	徳永 健伸	東工大	清野 正樹	松下	郡司隆男	神戸松蔭女子学院大
鳥澤 健太郎	東大	平川 秀樹	東芝	斎藤 博昭	慶大	佐藤 滋	東北大
藤田 稔	キャノン	松井 くにお	富士通	島津 明	北陸先端大	鈴木 克志	三菱電機
丸山 直子	東京女子大	元吉 文男	電総研	武田 浩一	日本 IBM	富浦 洋一	九大
湯村 武	三洋			中澤 恒子	東大	中村 順一	京大
				松本 裕治	奈良先端大	宮崎 正弘	新潟大
				柳田 益造	同志社大		

計 15 名 (50 音順)

計 19 名 (50 音順)

(7) 言語処理学会 1998-1999 年度 役員 一覧

役員名	氏名	所属
会長	飯田 仁	ソニー・CSL
副会長 (編集担当兼務)	辻井 潤一	東大
理事 (編集担当)	中川 裕志	横浜国大
理事 (編集担当)	田窪 行則	九大
理事 (編集担当)	池原 悟	鳥取大
理事 (事業担当)	中野 洋	国研
理事 (事業担当)	片桐 恭弘	ATR
理事 (事業担当)	井佐原 均	通信総研
理事 (事業担当)	浦谷 則好	NHK
理事 (事業担当)	岡田 直之	九工大
理事 (渉外担当)	荻野 綱男	都立大
理事 (渉外担当)	橋田 浩一	電総研
理事 (総務・財務担当)	白井 諭	ATR
理事 (総務・財務担当)	小林 哲則	早大
		(以上 14 名)
監事	樽松 明	電通大
監事	白井 克彦	早大
		(以上 2 名)
顧問	長尾 真	京大
顧問	田中 穂積	東工大
		(以上 2 名)

(8) 年度 会費納入状況 (1999年3月31日現在)

	会員総数	納入済み件数	未納件数
正会員	604* ¹	568* ³	36
学生会員	111* ²	85* ⁴	26
賛助会員	16 (20口)	20	0
購読会員	34 (35口)	33* ⁵	2
合計	765	706	64

*1 海外在住 14名含む

*2 海外在住 3名含む

*3 過年度分 16件含む

*4 過年度分 7件含む

*5 過年度分 2口含む

(9) 言語処理学会 第5回年次大会 収支報告 (1999年6月7日現在)

科目	内訳	金額
収入	本大会参加費 (371名)	1,684,000
	チュートリアル参加費 (144名)	483,000
	ワークショップ参加費 (123名)	416,500
	懇親会参加費 (60名)	218,000
	本大会発表論文集売上 (40冊)	156,000
	チュートリアル資料売上 (22冊)	76,000
	ワークショップ論文集売上 (24冊)	96,000
	普通預金利息	208
収入合計		3,129,708
支出	講義室使用料, 学生係員謝金, 等	368,491
	講演料・講師旅費	297,269
	懇親会費用	245,000
	論文集印刷費 (チュートリアル, 本大会, ワorkshop)	1,144,448
	大会業務委託費用 (学会センター)	459,786
	大会当日参加登録業務, 旅費, 宿泊費	102,960
	予稿集販売業務委託費用	4,300
	送金手数料	1,970
支出合計		2,624,224
収支		+ 505,484

編集委員会からのお知らせ

- このたび編集委員会の体制を改めました。新体制は最近の編集委員会の状況に合わせたものです。まず、投稿論文の多い分野に対して十分な数の編集委員(査読者)がいないという傾向がありました。次に、編集委員は国内だけで40名ほどいましたが、委員会に出席して下さるのは特定の委員で、半数以上の委員はもっぱら査読専門の委員であるというも最近の状況でした。また、編集委員に任期がなく、熱心に活動をして下さる委員には際限のない負担をしいていました。こういう状況を反省し、編集委員と査読委員を分けて、編集委員に任期を設け、査読者の数を増やすこととしました。
- 「自然言語処理」もおかげさまで順調に号を重ねています。ひとえに会員の皆様の研究の進展の反映だと思っています。最近自然言語処理に掲載された論文が学位論文につながる場合も多くなっているようです。嬉しい限りです。多くの論文が掲載されていますが、言うまでもなく論文は査読を経て掲載されています。最近の採録率は50%程度です。この数字が高すぎるかそうでないかは会員によって見方は違うでしょうが、編集委員会としては、もっと論文が採録されることを願っています。
- 学会発足当初より編集委員(査読者)にはこの記事の後にあります論文査読倫理綱領に従って公正で迅速な査読をお願いしてきました。編集委員会では査読結果に問題がないか真剣に議論し最終的な採否の審議をしています。この点からは編集委員会は厳しく論文を選り分けているようにみえるかもしれませんが、むしろ逆で、返戻という査読結果の場合、論文のよい面が何かをみて、返戻としてそのまま認めてよいか、論文が掲載される見込みがないかということを議論しています。
- 返戻になった論文をみていると、論文の元となった研究の本質そのものでないところで不採録になっているものも少なくありません。投稿にあたっては、主張したいことがちゃんと書けているか、文章が分かりやすく書けているか、などは最低限みなおして投稿していただければと思っています。共著者が論文を読んでないのでと思われる場合もあります。査読者は自分の時間を割いて無償で論文を読んでいます。文章が分かりにくいとか論理的な構成が不適切などの理由で読みにくい論文、研究が不十分な段階でまとめた論文、などの場合、査読者は耐えながら奉仕することになるわけです。書き方を含め論文がレベルに達していなければ、返戻が妥当な結果なのですが、委員によっては、何とか論文を理解しようと努力して下さり、かえって査読に時間がかかっているような場合もあるようです。
- 言語処理学会は、入会案内にありますように、言語処理に関連する多くの対象を活動範囲にしています。編集委員会はそのような広い範囲からの論文投稿を待っています。この雑誌を通し、会員諸氏の研究が発展することを、自然言語処理技術が発展することを祈っています。

島津 明 (編集委員長)

論文査読倫理綱領

1. 論文査読の公平性, 迅速性, レベルは学会の評価に直接つながるものであるから, 以下のことを常に念頭におき, 論文の査読, 判定をしなければならない.
2. 論文の主張する内容が査読者の立場, 考え方と相入れない場合でも, その前提, データ等から妥当に帰結できるものであると認められる場合は, それを是認すること.
3. 査読者自身が自分が全知でないことをよく自覚し, 「疑わしきは罰せず」の立場で論文をよむこと.
4. 論文に対してコメントするときは, その論文がコメントによって良くなり, 著者がより良い研究者となって行ってくれることを念じて行うという態度を忘れないようにすること.
5. 数学的, 論理的な内容のものだけが科学的あるいは学問的な論文とは限らない. 数学的, 論理的記述によって表面的にはしっかりした論文のように見えても内容のほとんどない論文もある. 要は, どのような新しい内容を持っているかで判断すべきだろう. 既知の方法論を使った場合でも新しいデータやソフトウェア, システムを作ったという場合もあり, それが価値あるものであれば認めるべきであろう.
6. 論文の査読は迅速に行うのが査読者の責任であると認識すべきである. 一日も早く博士号を取得し一人前の研究者の仲間入りをしたいと思って日夜研究を行い論文を投稿してくる人も多いのである. この学会の設立は自然言語処理の研究者人口をふやし, この分野を大きく育ててゆくことに一つの目的があるのだということを忘れずに, 迅速に公正に査読することがその目的のために貢献していることになることを認識して, 査読作業を行うことが必要だろう.

自然言語処理特集号の投稿募集案内

テーマ: 構文解析

特集の趣旨:

形態素解析が一応の実用レベルに達した現在、構文解析の精度向上を目的とした研究・開発が活発に行われている。規則方式・統計方式などさまざまな手法が試みられており一定の成果を上げつつある。これらの成果の一部は、1999年3月に行われた第5回年次大会併設のワークショップでも報告された。本特集号は、最近の構文解析に関する研究・開発成果を集め、構文解析技術の現状を把握するとともに、今後のさらなる発展の基礎となる情報を集約することを目的としている。テーマとしては、以下を含むが、これらに限るものではない。

構文解析アルゴリズム

統計方式構文解析

規則方式構文解析

コーパスの利用

構文解析の応用

ロバストな構文解析

人間が行っている構文解析の分析

原稿執筆要領:

自然言語処理掲載の原稿執筆案内を参照してください。

「構文解析」特集号への投稿であることを明記してください。

投稿締め切り:

1999年12月31日

原稿送付先:

江原暉将

〒157-8510 東京都世田谷区砧1-10-11

NHK放送技術研究所

eharate@str1.nhk.or.jp

tel. 03-5494-2308 fax. 03-5494-2371

特集編集委員(五十音順):

内元清貴(通総研)

宇津呂武仁(奈良先端大)

江原暉将(NHK, 特集号編集委員長)

柏岡秀紀(ATR)

黒橋禎夫(京大)

白井清昭(東工大)

関根聡(New York大)

富浦洋一(九大)

問い合わせ先:

学会に関する問い合わせは「学会センター関西」をお願いします.

〒 565-0082 豊中市新千里東町 1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル 14F
学会センター関西 (担当: 山元 理恵)
tel: (06)6873-2301
fax: (06)6873-2300
email: o-socie@bcasj.or.jp

ニュースレター担当: 片桐恭弘

〒 619-0288 京都府相楽郡精華町光台 2-2
ATR 知能映像通信研究所
fax: 0774-95-1408
e-mail: katagiri@mic.atr.co.jp